

# 令和2年度 施策評価シート

## 1. ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030 における位置づけ

施策体系	分野	07 都市整備 ～快適で便利なまち～					
	施策	32 水道 ー安全な水道水を安定供給しますー					
重点プロジェクト		強靱なまちづくりプロジェクト					
主管課	都市政策部 上下水道課	評価責任者				櫻井 進一	
		評価日				令和3年6月4日	
関連課							
目標		浄水施設や水道管路などの水道施設の維持管理を適正に行うとともに、給水量の減少を踏まえた水道施設の更新など事業の見直しを進めます。					
施策目標の実現に向けた取組		<p>(1) 水道水の安定供給</p> <p>○給水量の減少を考慮した、福岡浄水場と大井浄水場からの給水区域の見直しや浄水場施設などのダウンサイジングを行います。</p> <p>○浄水場の水質管理や施設の適切な維持管理、老朽管や石綿セメント管の更新を通じ、災害に強く安全な水道水の安定供給に努めます。</p> <p>○緊急時における飲料水を確保するため、取水施設の耐震化及び老朽化した井戸の水質改善を検討します。</p> <p>(2) 水道事業の経営基盤の強化</p> <p>○水道事業の安定化のため、施設の耐震化や計画的な施設更新を実施するとともに、今後の水道水の需要を的確に把握し、適正な料金水準を設定します。</p>					

## 2. 施策指標と達成状況

※網掛けの指標は前期重点プロジェクトに該当する指標です。

施策 目 標	指標 1	指標名	石綿セメント管の残延長					
		説明	耐久性のあるダグタイル鑄鉄管等への更新延長1.1kmを目標としていたが、早期に耐震化率を向上させ、安全で安心な水道水の安定供給を図るため、更新事業に注力した結果、目標値を超える実績値となっている。					
		単位	km					
	活動	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		目標値	10.30	9.20	8.10	7.00	6.00	5.00
		実績値	9.50	8.00	6.60			
	指標 2	指標名	井戸の更新(新設)箇所数					
		説明	大規模な停電発生時においても水道水の安定供給を図るため、水源井戸の掘り替え、又は電源盤を改造しており、計画している井戸の掘り替えは完了したことから、2箇所の電源盤を改造した。					
		単位	箇所					
	活動	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		目標値	3	4	5	6	7	7
		実績値	1	3	5			
	指標 3	指標名						
		説明						
		単位						
	活動	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		目標値						
		実績値						
	指標 4	指標名						
説明								
単位								
活動	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
	目標値							
	実績値							
指標 5	指標名							
	説明							
	単位							
活動	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
	目標値							
	実績値							

3. 施策への投入コスト

(単位：千円)

		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
支出	事務事業費	2,149,351	2,094,028	2,254,456	2,199,858		
	人件費	84,274	95,884	93,930	93,929		
収入	特定財源	2,233,625	2,189,912	2,348,386	2,293,787		
	一般財源	0	0	0	0		

4. 評価対象年度の施策実施内容

※網掛けの指標は前期重点プロジェクトに該当する取組です。

		実施内容	実施実績と効果	主な事務事業
取組①	石綿セメント管の残延長	いかなる時においても安全で安心な水道水の安定供給を行うため、老朽管（石綿セメント管）を耐震性・耐久性に優れたダクタイル鑄鉄管等に更新するとともに、既設管の維持管理及び施設水準の向上に向け取組んでいる。	老朽管（石綿セメント管）を耐震性・耐久性のあるダクタイル鑄鉄管等に更新することにより、漏水等の事故発生率を低下させ、安全で安心な水道水の安定供給に図られている。また、漏水等事故の発生率が低下したことにより、有収率の向上にも繋がっている。	水道管路施設管理・更新事業
取組②	井戸の更新（新設）箇所数	いかなる時にも水道水の安定供給が可能となる強靱な水道の構築を進め、安全で安心な水道水を安定して供給するため、水源及び浄水場の設備等の維持管理を行うとともに、配水池等の耐震性向上、水源となる井戸の施設更新を行う。	配水池耐震補強工事のほか、水源井戸の電気盤の改造とともに、停電時でも水源井戸の稼働を可能とする可搬式発電機を配備した。ライプラインの整備により、強靱な施設へと更新されていることから、水道水の安定供給に繋がっている。	浄水施設管理・改修事業
取組③				
取組④				
取組⑤				

5. 評価

		評価
指標の達成状況	順調	水道は、市民生活や経済活動に欠かせない最も重要なライフラインとして、24時間365日、安心して利用できるよう、施設の構築が求められている。
行政資源の活用	適切	水道水の安定した供給を図る上で欠かすことができない配水管については、その規模や経営的課題から、1年度につき、1.1kmの更新事業としているが、漏水事故及び災害対策として耐震化率の早期向上を図るため、更新事業に力を注いでいることから、計画の目標値を大きく超える結果となっている。また、更新事業が遅れていた井戸の更新（新設）箇所数については、2箇所の電源盤を改造したことから、計画の目標値に達するとともに、停電時においても水源井戸の稼働を可能とする可搬式の発電機を配備したことにより、近年大規模化する自然災害に備えることができている。
取組の有効性	有効	こうしたことから、水道施設においては、災害対策が計画通りに強化されており、重点プロジェクトに掲げられている「強靱なまちづくりプロジェクト」は順調に進んでいると捉えている。
施策の効果	効果が得られている	今後においても、安全で安心な水道水の安定した供給を継続するため、施設の強化に向けた耐震工事及び水源井戸の更新・改造に取り組む。また、老朽化した管（石綿セメント管）の更新を継続するとともに、既設管の維持管理及び施設水準の向上に努めることにより、強靱な水道の構築を進める。

# 令和2年度事務事業評価シート

## 1. 事務事業の概要

事務事業名		水道事業管理等事務	前年度の方向性 継続	
重点プロジェクト				
施策体系	分野	07 都市整備 ～快適で便利なまち～		
	施策	32 水道 ー安全な水道水を安定供給しますー		
予算費目				
所管部課		都市政策部 上下水道課	評価責任者	大塚 昌利
事務事業期間		昭和38年度～	評価日	令和3年6月1日
個別計画 根拠法令・条例等				
水道法、地方公営企業法、ふじみ野市水道事業及び下水道事業の設置等に関する条例 ふじみ野市水道事業給水条例、ふじみ野市水道事業ビジョン等				
事務事業の内容	事務事業の目的	生活用水、その他の浄水を市民に供給するため、安全・安心、かつ、安定した水道水の供給体制の確立を目指し、計画的・効率的な事業経営に取り組むことを目的とする。 また、水道事業の健全運営に資するため、事業経営の基礎となる水道料金を適正に収納する。		
	事務事業の経緯	水道事業は、地方公営企業法に基づく地方公営企業として、市長部局から独立し、独立採算が求められている。地方公営企業として適正な予算・決算及び出納事務を実施し、併せて継続的に安定的な経営を維持する。		
	事務事業の概要	安全・安心、かつ、安定した水道水の供給体制の確立、及び計画的・効率的な事業経営を図るため、的確な水道事業の予算編成、決算書作成及び執行管理を実施し、適正な会計処理を行う。 なお、料金徴収に対する業務については、包括的委託を平成24年度から実施済み。		
	令和2年度の主な取組	水道事業の予算編成、決算書作成及び執行管理を実施し、適正な会計処理を行うことにより、経営の安定を図った。 水道料金徴収等の業務委託については、適切な監督・指導を行い、水道料金等の徴収率の向上を図っている。 新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、市民生活及び経済活動を支援する観点から令和2年7月と8月の検針分について、5万円を限度として水道料金の減免を行った。		

## 2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		令和元年度 実績	令和2年度 実績	令和3年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	4.00	3.90	4.00
		人件費	33,672	31,423	32,228
	再任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
		人件費	0	0	0
	会計年度任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
		人件費	0	0	0
人件費計		33,672	31,423	32,228	
事業費	報酬	75	67	198	
	賃金	0	0	0	
	需用費	584	1,046	3,956	
	委託料	103,178	104,006	106,809	
	使用料及び賃借料	1,073	1,315	1,582	
	工事請負費	0	0	0	
	負担金、補助及び交付金	333	333	332	
	扶助費	0	0	0	
	その他事業費	696,147	694,372	729,451	
支出合計		835,062	832,562	874,556	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	208,344	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	835,062	624,218	874,556
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	0	0	0
一般財源		0	0	0	
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		0	0	0	

※報酬、賃金には、臨時・嘱託職員の人件費も含まれています。

### 3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	当年度純利益(純損失) 額		
	説明	収支状況を表し、収益から費用を減じた事業活動の最終的な収支状況を表す指標。 ※この数値がプラスであれば純利益、マイナスであれば純損失が生じている。		
活動	単位	千円		
	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値	30,201	28,362	173
	実績値	135,547	177,635	
指標 2	指標名	経常収支比率		
	説明	経常費用が経常収益によって、どの程度賄われているか収益性を表す指標（経常収支比率＝経常収益/経常費用×100） ※この比率が100%以上である場合、収益で費用を賄うことができている、経常利益が生じている。		
成果	単位	%		
	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値	102.15	102.04	100.26
	実績値	108.88	111.66	
指標 3	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値			
	実績値			

### 4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の 実施内容・効果	<p>水道事業の予算編成、決算書作成及び執行管理を実施し、適正な会計処理を行うことにより、経営の安定を図った。</p> <p>令和3年度予算編成事務においては、令和元年度の水道事業決算における各指標に基づき、PDCAサイクルを用いた進捗管理及び他事業体の平均との比較等を行った。</p> <p>水道料金徴収等の業務については、適切な業務の監督・指導を行うとともに、Fメール等により水道料金等の納期限の周知及び口座振替の勧奨を行うことにより、水道料金等の徴収率の向上が図られた。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、市民生活及び経済活動を支援する観点から令和2年7月と8月の検針分について、5万円を限度として水道料金の減免を行ったことにより、水道利用者の負担軽減を図った。</p>
------------------	--

### 5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	水道（事業）は市民生活・企業活動に必要なライフラインであることから、「ふじみ野市水道ビジョン」、「ふじみ野市水道事業基本計画」及び「ふじみ野市水道事業経営戦略」に基づき、節水機器の普及の影響による給水収益の減少や、水道施設の老朽化による更新需要の増大及び耐震化などの課題等に適切に対処するとともに、長期的な視点に立ち、水道事業を展開していく必要がある。
中長期的方向性	
継続	

# 令和2年度事務事業評価シート

## 1. 事務事業の概要

事務事業名		浄水施設管理・改修事業	前年度の方向性 継続	
重点プロジェクト		強靱なまちづくりプロジェクト		
施策体系	分野	07 都市整備 ～快適で便利なまち～		
	施策	32 水道 ー安全な水道水を安定供給しますー		
予算費目				
所管部課		都市政策部 上下水道課	評価責任者	高橋 昌巳
事務事業期間		昭和38年度～	評価日	令和3年6月1日
個別計画 根拠法令・条例等		水道法、地方公営企業法、ふじみ野市水道事業ビジョン、ふじみ野市水道事業基本計画		
事務事業の内容	事務事業の目的	水源・浄水場の適切な運転・維持管理及び水質の管理を行い、市民に安全な水道水を安定供給することを目的とする。		
	事務事業の経緯	水道利用者を対象に、安全な水道水を安定供給するため、水源・浄水場の運転・維持管理、水道法に基づく水質検査を行う。		
	事務事業の概要	安全な水道水を安定供給する為、原水、浄水の水質検査、水源・浄水場の運転及び設備等の維持管理を行う。 また、災害時にも水道水の供給が可能な強靱な水道の構築を進めるため、配水池等の耐震性の向上や、水源となる井戸の更新を行う。		
	令和2年度の主な取組	①運転管理及び施設点検ー福岡・大井浄水場及び取水施設において、安心して利用できるよう、運転管理を行うとともに、計装機器や非常用発電機の点検、整備、修繕等を行った。 ②水質検査ー水質検査計画に基づき各浄水場及び水源の他、市内4施設で水質検査を行った。 ③施設の強靱化ー(1)令和元年度から継続して施工していた福岡第4配水池耐震補強工事が完了した。(2)災害時などの停電に対応するため、水源用発電機を導入するとともに、水源2か所の電気盤に接続用の改造を行った。		

## 2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		令和元年度 実績	令和2年度 実績	令和3年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	2,50	2,50	2,50
		人件費	21,045	20,143	20,143
	再任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
		人件費	0	0	0
	会計年度任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
	人件費	0	0	0	
人件費計		21,045	20,143	20,143	
事業費	報酬	0	0	0	
	賃金	0	0	0	
	需用費	81,800	66,788	92,106	
	委託料	156,632	170,922	176,429	
	使用料及び賃借料	625,297	630,551	635,732	
	工事請負費	107,493	208,354	0	
	負担金、補助及び交付金	0	0	0	
	扶助費	0	0	0	
	その他事業費	285	299	315	
支出合計		992,552	1,097,057	924,725	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	16,000	6,700	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	887,952	917,057	906,425
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	88,600	173,300	18,300
		基金	0	0	0
		その他	0	0	0
一般財源		0	0	0	
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		0	0	0	

※報酬、賃金には、臨時・嘱託職員の人件費も含まれています。

### 3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	井戸の更新(新設)箇所数		
	説明	安全な水道水を安定供給するとともに、緊急時の飲料水の供給確保のため必要な水源(電源等)の更新を行う。		
活動	単位	箇所		
	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値	4	5	6
	実績値	3	5	
指標 2	指標名	施設月例点検		
	説明	安全な水道水を安定供給する為、水源・浄水場の施設の運転及び設備等の点検を行う。(2施設の月例点検)		
活動	単位	回		
	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値	24	24	24
	実績値	24	24	
指標 3	指標名	施設年次総合機能点検		
	説明	安全な水道水を安定供給する為、水源・浄水場の施設の運転及び設備等の点検を行う。(2施設の年次点検)		
活動	単位	回		
	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値	2	2	2
	実績値	2	2	

### 4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の実施内容・効果	<p>① 水源となる井戸や浄水場内に配置されているポンプ等の運転操作や維持管理を行うことで、安全な水道水の安定供給を行った。</p> <p>② 大井浄水場、福岡浄水場及び市内10箇所の水源井戸において、原水や浄水の水質検査を実施し、水道法に基づき厚生労働省令により定められている水質基準に適合するように監視、管理を行った。</p> <p>③ (1)災害時にも水道水の供給が可能な強靱な水道の構築を進めるため、福岡浄水場内にある第4配水池の耐震補強工事を令和元年度から令和2年度にかけて行った。配水池の耐震工事に加え浄水場内の配管を改修したことにより、急な停電等で配水ポンプの電力が失われた場合でも一部のエリアにおいて、第4配水池に貯水されている水を一時的に自然流下で配水することが可能となった。</p> <p>(2) 県水の断水や市内の水源井戸が稼働できない大規模停電による事態を想定し、一部の水源井戸を動かすことができる可搬式の発電機を配備した。併せて、福岡第3水源、福岡第5水源の電気盤にこの発電機を接続することができる改造を実施したことにより、有事の際における水道原水不足の軽減効果が期待できる。</p>
--------------	---

### 5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	市民生活や経済活動に欠かせないライフラインとして、24時間365日、安心して利用できるよう、事業を継続させる必要がある。
中長期的方向性	災害時にも水道水の供給が可能な強靱な水道の構築を進めるためには、水道施設の耐震性を高めていかなければならない。貴重な水道水を貯めておく配水池の中でも、規模の大きい容量を有する配水池等重要構造物の耐震工事は、特に欠かすことができない。令和3年度には、福岡第1配水池の耐震工事に向けた実施設計を実施していく予定である。
継続	また、災害時等における水道原水確保の重要性からも福岡第1水源、大井第3水源の電気盤の改造が必要である。併せて、適切な維持管理による施設の長寿命化にも取り組んでいく必要がある。

# 令和2年度事務事業評価シート

## 1. 事務事業の概要

事務事業名		水道管路施設管理・更新事業	前年度の方向性 継続	
重点プロジェクト		強靱なまちづくりプロジェクト		
施策体系	分野	07 都市整備 ～快適で便利なまち～		
	施策	32 水道 ー安全な水道水を安定供給しますー		
予算費目				
所管部課		都市政策部 上下水道課	評価責任者	高橋 昌巳
事務事業期間		昭和38年度～	評価日	令和3年6月1日
個別計画 根拠法令・条例等		水道法、地方公営企業法、ふじみ野市水道事業ビジョン、ふじみ野市水道事業基本計画		
事務事業の内容	事務事業の目的	老朽管（石綿セメント管）を耐震性に優れた管に布設替え（更新）を行うことで、漏水を減らし震災に備えるとともに既設管の維持管理を行うことにより、安全・快適な水の安定供給を図ることを目的とする。		
	事務事業の経緯	石綿セメント管は、摩擦損失係数が小さく、他の材料に比べて安価であったこと等から、水道事業創設（東側地区・昭和37年、西側地区・昭和39年）から昭和50年代前半に布設された。しかし、石綿セメント管はせん断性が弱く、破損率が他の管種よりも高く、老朽化した管渠を水道管の耐震化を計画的に更新事業を実施している。		
	事務事業の概要	老朽管（石綿セメント管）を耐震性・耐久性のあるダクタイル鋳鉄管に更新するため、実施設計、施工管理を行い、安全・快適な水の供給や災害時にも安定的な供給を行うために既設管の維持管理や施設水準の向上に向け取り組んでいる。		
	令和2年度の主な取組	老朽管（石綿セメント管）を耐震性・耐久性のあるダクタイル鋳鉄管等に約1.4km更新した。また管布設替えの際に、経済性を考慮しダウンサイジング（減径）を実施した。（上記の内、約0.5Km分）		

## 2. 事務事業費・人件費

（単位：千円）

【支出】		令和元年度 実績	令和2年度 実績	令和3年度 当初予算
人件費	正規職員	従事人数(人)	4.50	4.50
		人件費	37,881	36,257
	再任用職員	従事人数(人)	1.00	1.00
		人件費	3,286	5,301
	会計年度任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00
	人件費	0	0	
人件費計		41,167	41,558	41,558
事業費	報酬	0	0	0
	賃金	0	0	0
	需用費	75,299	81,298	107,549
	委託料	15,744	17,989	21,698
	使用料及び賃借料	185	185	186
	工事請負費	227,274	265,590	311,185
	負担金、補助及び交付金	0	0	3,300
	扶助費	0	0	0
	その他事業費	2,629	11,341	9,030
支出合計		362,298	417,961	494,506
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0
		県支出金	0	0
		使用料・手数料	349,218	404,221
		分担金・負担金	13,080	13,740
		地方債	0	0
		基金	0	0
		その他	0	0
一般財源		0	0	0
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		0	0	0

※報酬、賃金には、臨時・嘱託職員の人件費も含まれています。

### 3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	老朽管（石綿セメント管）更新進捗率		
	説明	老朽管（石綿セメント管）を計画的・効果的に更新していくことにより、耐震性を高め、安全で安心な水道水の供給を図る。		
活動	単位	%		
	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値	90.80	91.90	93.00
	実績値	92.00	93.40	
指標 2	指標名	石綿セメント管の残延長		
	説明	老朽管（石綿セメント管）を計画的に更新し、残存延長を減らすことにより、耐震率が上がり、安全で安心な水道水の供給を図る。 令和5年度には、石綿セメント管の残延長5.0kmを目指す。		
活動	単位	km		
	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値	9.20	8.10	7.00
	実績値	8.00	6.60	
指標 3	指標名	有収率		
	説明	老朽管（石綿セメント管）を漏水の少ない耐震性・耐久性のある管に更新することにより、有収率の向上を図る。		
活動	単位	%		
	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値	95.00	95.00	95.00
	実績値	93.55	95.60	

### 4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の 実施内容・効果	<p>石綿セメント管については、創設時より布設したものがほとんどで、当時は、安価で最適な管種として主流をつとめた製品である。 しかしながら、耐震性が低い上に現在では老朽化が進み漏水や破損事故等につながる可能性がある。 この石綿セメント管を布設替えし、耐久性のあるダクタイル鋳鉄管等で更新し（令和2年度においては約1.4kmを更新）管路の耐震化率を高くすることにより、事故割合を低下させ、安全・安心な安定した水道水の供給することが出来る。</p> <p>○石綿セメント管 石綿繊維（アスベスト）、セメント、珪砂を水で練り混ぜたもの。アスベストセメント管、石綿管とも呼ばれる。 長所としては、耐食性・耐電食性が良好であるほか、軽量で加工が良い。また、価格が安価などが挙げられる。一方、強度面や耐衝撃性で劣るなどの短所がある。</p> <p>○残存率（令和2年度） 石綿セメント管残存延長（6.6km）÷導・配水管総延長（329.6km）×100≒2.0%</p> <p>○有収水量 料金徴収の対象となった水量及び他会計等から収入のあった水量。</p> <p>○有収率 有収水量を配水量で除したもの。</p>
------------------	---

### 5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	老朽管（石綿セメント管）を耐震性に優れた管に布設替え（更新）を行うことで、漏水を減らし震災に備えるとともに既設管の維持管理や施設水準を向上させることにより、安全・快適な水の安定供給を図り災害に強い街づくりを目指すため。
中長期的方向性	
継続	